

サーチライト With Pastor Jon 創世記 4 章 パート 4

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

私は今、ここにいる人たちに言っているのです。インターネットの閲覧やネットサーフィン、ケーブルテレビや雑誌を見ること、何であれ、それらは無害ではありません。

雑誌 SPORTS ILLUSTRATED の水着姿のモデル特集号もそうです。「ただのアメリカの文化だよ。」いいえ、これは罪です。これは、はっきりと、どこから見ても罪。もし、あなたがその雑誌を見たとしても、その罪は赦されます。“あの血”によって贖われているから。しかし、悪夢のような恐ろしい状態になるでしょう。なぜなら、あなたが配偶者を、女性なら夫を、男性なら妻を、その雑誌からダウンロードしたり、検索した画像と比較して、「夫（妻）は何だかみすぼらしい…」と言い始めるから。この画像の人たちは『飾り』、この…私の横にいるこの人は『みすぼらしい』

私が言いたいのは、肉体関係だけでなく、確かにそれは最近、最も顕著な問題ですが、それに限らず、たとえクリスチャン同士であっても、友達関係や精神的なつながりにも思慮分別を持つこと。繰り返して言いますが、気をつけて、用心して、警戒して。

「私たちは普通の仲間だ。」「彼は霊的にとても優れた兄弟だから。」「彼女はただの特別な姉妹に過ぎない。」そちらに行ってはいけません! もしそっちに行く事を選んだら、あなたの目には配偶者がどんどんみすぼらしくなっていきます。賢くなって! 気をつけて!

これが、“カインの道”(ユダ 1:11)なのです。レメクは言いました。

「オレは二人の女を妻にしよう。」「この二人の女はオレのものだ!」「女を二人! イエイ!」「これは、神の恵みだ。」「オレが一人の女だけのものだなんて、モッタイナイ!」

愛する姉妹たち、愛する兄弟たち、それぞれの配偶者の肉体的、精神的な必要を満たすように努めなさい。全力で。配偶者以外の人に、恋愛感情や友情や何にしても、感情を注ぎ込まないこと。でないと、トラブルになります。

「4 章は本当に勉強になる。」「色々分かってきたよ。これが社会というものだ。」「みんながやっていることだし。」ええ、その通り。

それは全て、“wild ass” (wild=野生、ass=ロバ / 愚か者) という意味の名のイラデから始まりました。皆さん、これは事実です。見て下さい。もうすぐ終わりますから。よく見て下さい。更に驚きです。

アダはヤバルを産んだ。ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。(創世記 4:20)

『家畜』という言葉の意味は『所有物』又は『製品』

これ以前は、人は集落に住んでいましたが、今、この異様な狂った血筋の、罪にまみれた集団であるカインの子孫は独立し、「俺は自立した生産者になる。」「自分で生きていく。」「ここで牛を生産していく。」「ここで家畜を所有していく。」「集落で他の人と関わって生きていくのはごめんだ。俺たちは出て行く。」「誰も必要ない。自分でやっつけていける。自分で築き上げるんだ。」

ヤバルは遊牧民の先祖、この場合は、牛を育て増やしていく畜産業の起業家とでも言いましょうか、独立した遊牧民になりました。

その弟の名はユバルであった。彼は立琴と笛を巧みに奏するすべての者の先祖となった。(創世記 4:21)

ヤバルがいて、次がユバル。

この起業家精神にあふれた、独立しようという考えはいつから始まったのでしょうか？ 音楽が始まったのはいつでしょう？ ここに書いてありますね。

ユバルは立琴と笛を演奏する全ての者の先祖です。言い換えれば、ヨブ記にあるような、神の御座の周りで神を礼拝し、ほめたたえるための立琴や笛ではなく、ここでは金儲けの手段で、それで生計を立てている。ヤバルは独立して家畜を生産する起業家となり、ユバルは「立琴や笛を演奏して金儲けをする。これが俺のやり方だ。」

ツイラもまた、トバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる用具の鍛冶屋であった。(創世記 4:22)

青銅と鉄のあらゆる用具を研ぎ、発展させて武器を製造する。これが最初の兵器の製造。

何のために？ 人々を軍事的に支配し、コントロールするために。

この男トバル・カインは青銅と鉄で武器を造り、まさに力によって人々を支配しました。

さて、レメクはその妻たちに言った。「アダとツイラよ。私の声を聞け。レメクの妻たちよ。私の言うことに耳を傾けよ。私の受けた傷のためには、ひとりの人を、私の受けた打ち傷のためには、ひとりの若者を殺した。」(創世記 4:23)

この、まともじゃないカインの血を引くレメクは、結局、殺人を犯した先祖のカインのようになりました。レメクがここで高ぶり、自慢し、豪語した言葉は、“剣の詩”と呼ばれています。「オレを痛めつけた奴を殺した。」「オレの邪魔をした奴を殺した。」

「カインに七倍の復讐があれば、レメクには七十七倍。」(創世記 4:24)

「カインのための復讐は 7 倍と神は言った (4:15) が、オレのためには 77 倍だ!」

何か気づきませんか? イエスが同じように、数に関して語ったのを思い出しますね。

“7 の 70 倍” 何に対して “7 の 70 倍” でしたか? それは、“赦し”

レメクは何と言いましたか? “復讐”

「カインが 7 倍の復讐で守られているなら、俺は 7 の 70 倍だ!」ヘブル語の字義通りに言うと、「赦してもらえとは思ふなよ!」「オレの邪魔をしたい奴は気をつけろ!」という考え方です。ここがどんな文化の場所か、見えてきたでしょうか?

ノデ (さすらう) の地のカイン文化。それは、常軌を逸しています。

書き留めて下さい。興味深いことに、現代の文化である肉体的な力強さ (machismo=マッチョ)、兵器、ミュージック、家畜の自主生産の起業意欲、これらは全て、今の世が高く評価しているものです。良いものだと。自分が建てた町を自分の家族に献げ、これら全てのものの上に、自己義によって仁王立ちになって、「俺の邪魔をする者には 7 の 70 倍の復讐だ!」「俺の邪魔をするな!」シカゴ・ベアーズ (アメリカンフットボール) のファンみたいですね。

皆さん、ここで重要なことを感じ取れますか? これらのものは、皆さんと私は違いますが、でも、今の世が高く評価するものです。しかし、神がここで言っていることは「これらはカインから来ている。」主に背を向け、主が語ることを聞かず、主の前にへりくだらなかつた男。さて、この件はここまでにしましょう。

雲の間から陽が射してきました。

アダムは、さらに、その妻を知った。彼女は男の子を産み、その子をセツと名づけて言った。「カインがアベルを殺したので、彼の代わりに、神は私にもうひとりの子を授けられたから。」(創世記 4:25)

『セツ』は『定められた/約束された』という意味。彼はカインとは違いました。

セツにもまた男の子が生まれた。彼は、その子をエノシュと名づけた。そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた。(創世記 4:26)

これについては次回学びますが、セツの血筋から神の民が生まれていきます。

カインの血筋からは文化が生まれ、それは現代では高く評価されていますが、神は、「その文化は病んでいて非常に悪く、芯まで腐っている」と言っているのです。

一方、セツからは別の血筋が生まれ、**人々は主の御名によって祈ることを始めた。**

愛する皆さん、これが皆さんのルーツです。皆さんが今夜ここにいるのは、「私たちが主の御名によって祈ろう」と思ったから。注意してよく聞いて下さい。

『主の御名によって祈る』というのは、文字通りのシンプルな意味だけではなく、『彼らは主の御名で呼ばれる』という意味もあるのです。

セツたちは言いました。「私たちは…」今の専門用語で言うならば「クリスチャンだ。」

私たちはヤバルの子孫ではなく、ユバルの子孫でもない。私たちはミュージシャンではなく、起業家でもない。私たちはトバル・カインのような兵士ではなく、レメクのような女たらしでもない。

私たちは信仰者。信じる者。それが、私のアイデンティティー。

勿論、牛を飼ったり、中にはマーティン・マリエッタ社に勤めて爆撃機を造っている人もいるでしょう。立琴や笛も演奏するでしょう。

でも、それは私のアイデンティティーではありません。私は、自分が誰であるかという私自身のアイデンティティーを知っています。

私もあなたも人々も、生計を立てるために必要に応じて色んな所で様々なことをします。

しかし、私は誰であるかという、私は、私を愛して下さる主を信じる者。それが私の全てです。今夜ここを去る時、全員が言うでしょう。「そうか! それが私だったんだ!」「今までずっと、自分が何者なのか探し続けていたけれど、私はそれだったのか!」

世間は、あなたのことを知ろうとする時はいつも、「お仕事は何をされていますか?」と聞きます。「ヤバルの子孫ですか? ユバルの子孫? それともトバル・カインの?」「何をしているのですか?」この「お仕事は何ですか?」は、カイン的質問だと知っていましたか?

この世の人々が興味を持っているのは、人がどんな仕事をしているかということです。

しかし、その質問は、セツの家系には絶対に全く関係がありません。

つまり、あなたは何をしている人かではなく、あなたは誰なのかということ。

あなたは自分を誰だと言いますか? 「私は信じる者」「主の名で呼ばれる者」「クリスチャン」「神の子イエス・キリストに従う者」

職業は関係ありません。学校の教師だろうが、銀行の取締役だろうが、農家、配管工、大工、関係ない。「本当に?」勿論、言いたいことは分かりますよ。

でも、仕事は私のアイデンティティーではありません。私はハープ奏者ではないし、笛の奏者でも、農場主でもない。私は信仰者。信じる者。それが私の全てです。

皆さん! カインの子孫としてではなく、セツの子孫としてのアイデンティティーを持って、今夜ここを出ましよう。それで、あなたはゆっくりと、しかし確実に、主の目に正しい道を行き、対極にあるカイン的文化から、まさに私たちが生きている、この世界の文化から自由になるでしょう。

今日 (1997 年) のニュースを見ましたか? 全くひどい。

皆さんがどこまで知っているか分かりませんが、私はとてもショックを受けました。

ある少女が HIV に感染したのですが、20 歳の男が、自分が HIV に感染し、エイズを発症していることを知りながら、28 人のセックスパートナーと関係を持っていたのです。彼女はその内の一人でした。彼と関係を持っていたのは、全員が 10 代の少女たち。彼は少女たちとセックスをすることによって、最終的には彼女たちを殺すことになるを知っていました。ニューヨークのジェームズ・タウンという小さなコミュニティ全体が、勿論このニュースを聞いた人も皆、言葉を失ったでしょう。非常に多くの、今のところ、28 人のティーンエイジャーの少女たちの内 9 人が、この若い男によって HIV に感染したことが明らかになっています。彼は、自分が何をしているのか分かっていた。

このニュースは、私たちの目を開きました。

しかしながら、私が一番衝撃を受けたのは、この男がやったことを知っている、感染した少女のインタビュー

一。アンバーというこの少女が言った言葉を引用します。

—引用—

「私は皆さんに知って欲しいのです。彼は自分がエイズになっていることを知りながら、たくさんの人にこんなことをしました。でも、彼はモンスターではありません。」—引用終わり—

アンバーと名乗るこの少女は、TVショーの司会者にこう書き送りました。「私はいつでも彼の味方です。」

—引用—「彼を一人で死なせたりはしない。彼を愛しているから。」—引用終わり—

私は大変驚きました。「一体、私たちの文化はどうなってるんだ!?!」

この男の身元（アイデンティティー）は公表されていません。HIV感染者の個人情報には法律で守られているから。でもこのケースでは、近所の人たちがルールを破って、彼の情報を漏らしました。

私たちが住むこのレメクの地、カインの文化に於いては、人は、全く承知の上で殺人を犯しています。しかも、その男が知っている上で、可能な限りの多くの少女たちにこんな事をしたとしても、「彼は悪い人じゃないのよ。彼を理解してあげて。」何なんでしょう!?!

皆さん、“新聞は読んじゃダメ”ですよ。と言っても、これは記事にはなりません。

今日（1997年）のこの記事、読んだ人がいるかもしれませんね。

シャワーカーテンが裂かれ、ナイフが刺さり、血が排水口に流れて行く…これは、アルフレッド・ヒッチコック監督の映画“サイコ”の恐怖のシーン。

主演女優ジャネット・リーの人生は、この映画によって影響を受けました。

—引用—

「私は突然、心の中で思ったの。シャワーの最中は無防備で、簡単に攻撃されてしまうんだわ。」

今、70歳の女優は言います。

「水の音に消されて何も聞こえないの。何も見えないし、簡単にやられてしまうのよ。」

サイコの上映のためにフィラデルフィアにいたリーは、

「37年前に、映画の中でアンソニー・パーキンス演じるノーマン・ベイツという恐ろしい男に襲われて以来、シャワーを浴びていないの。」

臭っ!!

「ジョン、インターネットだの、レメクだの、人間関係だの、あれやこれやとたくさん説教し続けている。」
と言いたいんでしょ? だから、ちょっとした息抜きですよ。

映画サイコでスターになったジャネット・リーは37年間もシャワーを浴びていません。あれは、ただの演技だったんだ、娯楽だったんだと言えるでしょうか?

私が伝えたいのは、自分の中に取り入れるものは、はじめに思っていた以上の大きな影響をあなたに与えるということ。どうか、そういったヤベル的な思考の場所へは近づかないように。そういう所から遠ざかりましょう。いいですね?

カイン的なものには関わらないように。「私たちは良い方の道を行くんだ。セツの血筋の者だから。」と宣言しましょう。「そこへは行かない。そんなことしない。そんなもの見ない。」「まったく違うことをやってるんだ!」

そのとき、人々は主の御名によって祈ることを始めた。(創世記 4:26)

これが正しいことであり、私たちの本質です。

さて、これで 4 章は終わりました。祈りましょう。

天のお父様。あなたのみことばの導きによって、今夜、私たちは思った以上の多くの教えを受け取りました。自分が取り入れてしまったり、絡まりついていたカイン的文化から、私たち一人ひとりを引き離して下さってありがとうございます。

お父様。4 章で学んだことを、これからの人生に活かし、一人ひとりが、あなたの目に正しく生きることができますように。罪が戸口で待ち伏せていますから、私自身と全ての兄弟姉妹、私たち全員が、今夜、正しい選択をしますように。

お父様。兄弟姉妹、友人たちに、教会の家族に、たくさんの知恵をお与え下さい。

みことばをありがとうございます。あなたのみことばが、広い範囲にわたって物事をはっきり示して下さったことを心から感謝します。

私たち一人ひとりの状況に応じて、それぞれの問題を理解し、考えることができるように導いて下さった聖霊様に感謝します。

お父様。この集会に集った人たちをどうぞ祝福して下さい。

これからも、あなたの御名によって祈り続けることができますように。

これからも、イエス様に固く結びついた者としてのアイデンティティーを持ち続けることができますように。

カインの争い、レメクの肉の欲から解き放たれ自由になりますように。

主よ。私たちが正しい行いをし、解放されますように。

イエスの御名によってお祈りします。アーメン。

二日でも、一月でも、あるいは一年でも、雲が幕屋の上にとどまって、去らなければ、イスラエルの子らは宿営を続けて旅立たなかった。しかし、雲が上ったときは旅立った。

彼らは主の命により宿営し、主の命により旅立った。彼らはモーセを通して示された主の命により、主への務めを守った。(民数記 9:22-23 新改訳 2017)